

業務実績に関する評価意見【項目別】（大学回答部分抜粋）

前橋工科大学 第1期中期目標期間における業務実績及び平成30年度業務実績まとめ

1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標
(1)	教育に関する目標
ア	学部教育に関する目標

①工学の各分野に対する高い関心と基礎的な学力を持ち、将来国内外の社会において活躍したいと考える向上心のある学生を受け入れる。あわせて、社会人にも門戸を開き、働きながら学ぶ意欲のある学生を積極的に受け入れる。

第1期中期計画		平成30年度年度計画																																												
No	中期計画	自己評価	評価意見等	No	年度計画	自己評価	評価意見等																																							
3	<p>③-3 総合デザイン工学科では、社会人の受け入れのために夜間及び土曜日の開講を継続し、社会人等を積極的に行う。また、就学者の実情に合わせて、昼の時間帯への授業時間の拡充を検討する。</p> <p>・総合デザイン工学科では夜間及び土曜日の授業開講を引き続き実施し、夜間及び土曜日実施の講義で卒業に必要な単位を修得できるようカリキュラムを組み、社会人学生の学びやすい環境を維持した。</p> <p>・夜間開講等、社会人の就学しやすい環境について、オープンキャンパスや大学案内パンフレット、大学HP等で周知を行い、社会人学生の募集を積極的に行った。また、入学選抜において社会人の定義が明確になっていなかったことから、平成31年度入試から、社会人の定義を明確にして独立した入学選抜を実施した。</p> <p>・多様な学生が入学してくる状況を読み、就学者の実情に合わせて単位取得ができるよう、平成26年度から、専門科目の一部科目を平日の昼間時間帯（5時限）に開講した。平成26年度から平成30年度まで、7つの科目について、前半で5時限、6時限で開講し効果等の検証を行ったが、平成30年度に前橋市から夜間開講の見直し指示が示されたことから、科目数の拡充はしなかった。</p> <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> <tr> <td>年度計画項目番号</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>年度計画自己評価</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>B</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> </tr> </table>	年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	年度計画項目番号	7	8	9	10	6	7	8	9	5	6	3	4	3	4	年度計画自己評価	B	C	B	A	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	<p>・社会人学生が教で、今後社会人学生を受け入れを継続するのは課題すべきだと思う。（教職員）</p> <p>総合デザイン工学科について、社会人等を対象に昼夜開講を行ってきたが、社会人学生の入学が少ないという現状から、「公立大学法・前橋工科大学の中期目標の期間の終了時の検討（平成30年11月）」にて、前橋市より夜間開講の廃止について検討するよう指示を受けた。総合デザイン工学科の夜間廃止を含め、工学部の学科再編について現在検討を行っている。</p>	3	<p>昼の時間帯への授業時間の拡充については、平成28年度にこれまで夜間開講について資料をまとめたが、その効果検証は今しばらく観察が必要と判断されたため、学期変更を伴う昼間開講への実施化については実施すべきではないとの結論に至った。</p> <p>しかしながら、前橋市から夜間開講の見直しを示されたため、学期変更を伴う昼間開講への実施化については実施すべきではないとの結論に至った。</p> <p>なお、これまで試行的に5限開講としてきた科目については、選択科目履修の確保を確保することに一定の効果があると期待されることから、平成31年度も継続実施することとなった。</p>	B	<p>・別添資料05-5時限開講科目履修者数状況</p>	<p>・評価意見等</p>	<p>・評価意見等に対する大学の回答</p>
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																								
年度計画項目番号	7	8	9	10	6	7	8	9	5	6	3	4	3	4																																
年度計画自己評価	B	C	B	A	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B																																
				4	<p>社会人の定義を明確化し、独立した社会人選抜を実施する。</p> <p>社会人（出願資格のある者）を以下のとおり定義し、社会人特別選抜として、独立した入学選抜を実施した。 (出願資格)・・・「学生募集要項」より抜粋。 平成31年4月1日現在、社会人経験（従事・卒業従事者を含む）5年以上を有する満23歳に達する者で、次の(1)から(3)のいずれかの項に該当する者 (1)高等学校（中等教育学校を含む。）を卒業した者 (2)通常の課程による12年の学校教育を修了した者 (3)学校教育法施行規則第150条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者</p>	B	<p>・平成31年度入試実績 - 志望者数1 - 合格者数1 - 入学者数1</p>	<p>・社会人学生が年に1人2人も実施すべきなのか？（教職員）</p>	<p>総合デザイン工学科について、社会人等を対象に昼夜開講を行ってきたが、社会人学生の入学が少ないという現状から、「公立大学法・前橋工科大学の中期目標の期間の終了時の検討（平成30年11月）」にて、前橋市より夜間開講の廃止について検討するよう指示を受けた。総合デザイン工学科の夜間廃止を含め、工学部の学科再編について現在検討を行っている。</p>																																					

③学部の専門教育においては、技術革新や価値観の多様化等の社会環境の変化に柔軟かつ的確に対応できる能力を培い、卒業後、市内産業分野をはじめとして社会の様々な分野で専門技術者として指導的役割を担うことができる人材を育成する。

第1期中期計画		平成30年度年度計画																														
No	中期計画	自己評価	評価意見等	No	年度計画	自己評価	評価意見等																									
6	<p>⑥-2 学生に、専攻分野ごとの履修モデルを明示し、体系的な学習を進めやすくするとともに、カリキュラム構成は常に点検し、標準修業年限である4年ごとに見直しを行う。</p> <p>・平成25年度に履修モデルを各学科で作成し、学生便覧への掲載や学科ガイダンス、オリエンテーション等で学生への指導を行った。</p> <p>・履修モデルがカリキュラム・ポリシーに沿ったものになっているか各学科で常に点検し、科目の配当年次の見直しや教員の退官・兼任に合わせた履修モデルの修正等を行った。</p> <p>・授業改善アンケート（旧授業評価アンケート）の項目に「関連する追加が望まれる授業科目」追加し、学友からの要望を調査した。</p> <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> <tr> <td>年度計画項目番号</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>13</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>年度計画自己評価</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> </tr> </table>	年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	年度計画項目番号	16	17	15	16	13	10	7	6	年度計画自己評価	B	B	B	B	B	B	B	B	B	<p>カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーに基づき、科目を体系的に整理し、科目と各ポリシーの整合性について検証し、カリキュラムの見直しを図る。</p> <p>勤務委員会等で各ポリシーの目的ごとに開講科目の整理を行ったうえで、科目の配当年次を見直し、各修業年度における学修のバランスを調える等の対応を行った。</p>	6	<p>・別添資料06-社会環境工学科教育方針と科目編成の対応一覧表</p>	<p>・評価意見等</p>	<p>・評価意見等に対する大学の回答</p>
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30																										
年度計画項目番号	16	17	15	16	13	10	7	6																								
年度計画自己評価	B	B	B	B	B	B	B	B																								
								<p>追加資料 ・H30-No10-教育方針と科目編成の対応一覧表（6学科×教職員）</p>																								

⑥学生の卒業後の進路を考慮し、キャリア支援教育を重視したカリキュラムを編成して実施するとともに、学生の就職に係る相談及び支援の体制を強化する。

第1期中期計画		平成30年度年度計画																																
No	中期計画	自己評価	評価意見等	No	年度計画	自己評価	評価意見等																											
15	<p>⑥-2 キャリアセンターは、キャリア支援プログラムが時代の進化に対応したものになるように勤務委員会と協力し、また、学生の社会の中で実践活動を支えるため地域連携推進センターと協力を図る。</p> <p>・地域連携推進センターの主催するこども科学教室に学生を多数参加させ、地域貢献活動の参加とともに、コミュニケーション、プレゼンテーション、デザイン及びプロデュース能力の養成を行った。</p> <p>・学内外で行われるビジネス交流会、就活セミナー、イノベーションアワード及び就職相談会等について学生への周知及び指導を行った。</p> <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> <tr> <td>年度計画項目番号</td> <td>33</td> <td>34</td> <td>35</td> <td>30</td> <td>31</td> <td>25</td> <td>22</td> <td>16</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>年度計画自己評価</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> </tr> </table>	年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	年度計画項目番号	33	34	35	30	31	25	22	16	13	年度計画自己評価	B	B	C	A	B	B	B	B	B	B	<p>学生に対し、地域連携推進センターが主催・開催しているビジネス交流会等のイベントへの参加について周知し参加を促した。また、各学科で行うキャリア支援・業界研究等について、学科間で情報共有を行い、学生に対して広報・周知を行う等、参加対象者を拡げて実施した。</p> <p>学内各機関・学科と連携、協力し、時代の変化に対応したキャリア支援プログラムを検討する。</p>	13	<p>・別添資料 ・H30-No13-ビジネス交流会チラシ</p>	<p>・評価意見等</p>	<p>・評価意見等に対する大学の回答</p>
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30																												
年度計画項目番号	33	34	35	30	31	25	22	16	13																									
年度計画自己評価	B	B	C	A	B	B	B	B	B																									
								<p>・「補足事項」に、周知・広報したことが分かる関連資料を追加してください。（富山委員）</p> <p>ビジネス交流会のイベントについては、キャリアセンター英語のセミナー（10月3日に実施した）一般常識テスト模範試験（参加人数：学部2年9人、3年79人、院生3人）の時に参加者に対してチラシを配布して周知を行った。</p> <p>学科で行うキャリア支援・業界研究等については、キャリア支援推進委員会等で情報共有（情報平等を口頭で共有）し、他学科の学生にも周知するよう依頼した。</p>																										

イ 大学院教育に関する目標

① 独創的な発想力と、研究に対する実行力を持ち、専門分野を極めたいという意欲のある人材を受け入れる。

第1期中期計画				平成30年度年度計画																													
No	中期計画	6年間の主な実績	自己評価	評価意見等	評価意見等に対する大学の回答	No	年度計画	業務の実績	自己評価	補足事項	評価意見等	評価意見等に対する大学の回答																					
19	①-1 大学院についても、「入学希望者受付方針（アドミッション・ポリシー）」を公表し、入学希望者向けに、入学説明会を実施するとともに、入学説明会を実施するとともに、大学の内外で行って募集活動を行う。	・平成25年度に大学院のアドミッション・ポリシーを全面的に刷新し、大学HPや募集要項に掲載し公表するとともに、オープンキャンパス実施時に大学院の説明会を行う等、広報活動を行った。	B			No	年度計画	大学院進学を希望する学部生に対して、卒業研究の着手時に大学院での研究を奨励した指導をしたり、本学大学院進学が学部生に対して大学院に進学するメリット等を説明する大学院進学ガイダンスを開催した。（開催日：9/20、11/16、12/13） また、大学HP内に各研究室を紹介するページを作成し、公開した。（公開日：7/20）	B	・別添資料18-大学院ガイダンス協力者一覧 ・別添資料19-大学院内部進学状況 ・社会環境工学研究室内紹介（大学HP）： http://www.mabashi-it.ac.jp/departmt/cee/lesson.html	・大学院で生命情報学専攻だけ極端に定員割れしているのは何か理由があるのか？（花泉委員）	情報系企業については、近年就職の状況も良好なため、学部卒業後に就職する学生が多い。 ・生命情報学専攻/生命情報学専攻の個別の要因としては、以下2点が考えられる。 ・生命情報学専攻では他専攻と比較して標準修業年内で卒業する学生の比率が低く、大学院進学を目指す学生の増加がみられない。 ・生命情報の分野が浸透しておらず、受験時と大学院入学後のミスマッチが生じて、大学院に進学して教育研究を継続しようとしている学生が少ない。 →教育カリキュラムや広報の課題については、学内に対応部会を設置し検討を開始した。																					
		年度											H25	H26	H27	H28	H29	H30															
		年度計画項目番号											44	45	46	47	39	40	41	42	32	33	34	35	36	29	30	31	32	20	21	17	18
		年度計画自己評価											B	B	A	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B

④ 産官学連携による学内外との組織的研究を積極的に実施する。

第1期中期計画				平成30年度年度計画													
No	中期計画	6年間の主な実績	自己評価	評価意見等	評価意見等に対する大学の回答	No	年度計画	業務の実績	自己評価	補足事項	評価意見等	評価意見等に対する大学の回答					
38	④-2 産官学連携による学内外との組織的研究の成果について相互に利用するネットワークを構築し、活用する。	・群馬産官学連携推進会議や医工研究会での連携や群馬県の産学連携事業等に積極的に参加し、群馬大学、前橋市、群馬県及び前橋商工会議所等との連携に係る意見交換を進めた。	B			No	年度計画	地産連携推進センターを中心に、産官学連携推進会議（7/23）では、本学教員11人が計14件のポスター発表を行ったほか、本学教員2人がテクニカルセッションにおいてハネリストとして参加した。また、くまみ連携フェスティバル（10/13）、東和新生会「ビジネス交流会」（11/20）、（県共催）4ブロック研修会（2/26）にブース出展や講師派遣を行い、研究の成果を発表した。	B	・「補足事項」に、発表等したことが分かる根拠資料を追加してください。（富山委員）	追加資料 ・H30-No35-4ブロック研修会 ・H30-No35-くまみ連携フェスティバル ・H30-No35-群馬県産官学連携推進会議 ・H30-No35-東和新生会ビジネス交流会						
		年度										H25	H26	H27	H28	H29	H30
		年度計画項目番号										76	70	65	54	38	35
		年度計画自己評価										B	A	A	B	B	B

② 国際交流のさらなる活性化のために、従来から実施してきた中国からの留学生の受け入れを継続的に行うとともに、他のアジア諸国からの留学生も積極的に受け入れる。

第1期中期計画				平成30年度年度計画													
No	中期計画	6年間の主な実績	自己評価	評価意見等	評価意見等に対する大学の回答	No	年度計画	業務の実績	自己評価	補足事項	評価意見等	評価意見等に対する大学の回答					
51	②-2 学生の交換留学について、アジア地域での交流大学を関係するときに、留学生の受け入れ方策について、検討を行う。	・平成24年度に締結したタイ王国セサート大学工学部との覚書に基づき、平成25年度に1名の学生を受け入れ、タイ国内の社会情勢もあり、平成26年度以降は学生の派遣、受け入れは実施できなかったが、平成31年度以降に学生交流の再開を予定している。 ・平成27年度にベトナム国立ダナン工科大学と協力と交流に関する協定を締結した。平成27年度には、建築学石川教授がダナン工科大学を訪問し特別講義を実施するとともに、本学との研究交流に向けた話し合いを行い、平成28年度から教員・学生を派遣し、現地にワークショップを開催している。 1) ダナン工科大学派遣学生数推移 - 教員 H28：2人、H29：2人、H30：1人 - 学生 H28：8人、H29：9人、H30：7人	B			No	年度計画	タイ王国セサート大学については、タイの国内情勢を踏まえた上で、タイの国内情勢を踏まえた上で、タイ王国セサート大学については、外務省等のタイ国内の動きに係る注意喚起により、派遣を控えている。平成29年度中に覚書期間の5年が経過したため、覚書を更新（平成30年3月16日締結）し、平成31年度の学生受け入れに向けて準備を進めた。 また、経済産業省にアドバイザー派遣を依頼し、群馬大学伊藤正実教授を本学の輸出管理アドバイザーとして迎え、学内規程等制定に向けて事務を進めている。	B	・別添資料36-国際交流報告会実施案内							
		年度										H25	H26	H27	H28	H29	H30
		年度計画項目番号										98	92	81	70	50	47
		年度計画自己評価										B	B	B	B	B	B

⑤ 教員の質向上に関する目標

⑥ 大学として社会的な責任を果たすため、人権の尊重や男女共同参画の推進に取り組む。

第1期中期計画				平成30年度年度計画															
No	中期計画	6年間の主な実績	自己評価	評価意見等	評価意見等に対する大学の回答	No	年度計画	業務の実績	自己評価	補足事項	評価意見等	評価意見等に対する大学の回答							
95	⑥-1 全教職員を対象とした研修会を毎年度実施することにより、ハラスメントを防止する。	・ハラスメントの防止に向け、外部講師を招聘しての講習会やDVD視聴による研修会を実施し、啓発を図った。また、教職員が外部の講習会に参加し、グループウェアに資料を掲載する等学内で共有を行った。	B			No	年度計画	引き続き、各種ハラスメントに関する研修会を開催したり、必要に応じて研修会を履修したことによりハラスメントが起きにくい環境づくりをする。	B	・別添資料58-（セミナー資料）発注者支援センター県民セミナー	・資料58は、履修上特別な支援を必要とする学生への学習支援に関するもの（10：9-1031）なので、ここには正しく該当するものを載せるべきである。（花泉委員） ・グループウェアに資料を掲載しただけでは、積極的な取り組みとは見なされないのではないか？（花泉委員） ・少なくともH30に関しては、セミナーの内容を確認した上で評価すべきである。（花泉委員）	中期計画では、全教職員を対象に毎年度研修会を実施することとしていたが、平成30年度は実施ができなかった。 ハラスメントに関する実績としては、No59の講義室内の見え方及び研修会の開催、No59のハラスメント相談制度について学生及び教職員に周知を行った。							
		年度											H25	H26	H27	H28	H29	H30	
		年度計画項目番号											163	164	153	133	117	92	85
		年度計画自己評価											B	B	B	B	B	B	B